

■H29. 7. 3 市長定例記者会見内容

日時 平成 29 年 7 月 3 日（月）午前 11 時～11 時 50 分

場所 庁議室

出席 市長、副市長、市政推進調整監、企画振興部長、市民部長、商工観光部長、政策推進課長、市民交流推進主幹、観光振興課長、スポーツ振興課長、市長公室長
酒田記者クラブ 9 社（山形新聞、荘内日報、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、河北新報、NHK、YTS、TUY）

■内容

1. 記者発表事項

①酒田おもてなしウイークについて

今年の 2 月に発足した酒田交流おもてなし市民会議の述べ会員数が 170 団体となった。今後、たくさんのお客さまが酒田にやってくる機会が増えるわけだが、8 月 1 日から 6 日までの期間を「酒田おもてなしウイーク」として位置付けて、酒田を訪れた方々を大歓迎するという、そういう強化週間を設定することで、今後の酒田のおもてなし環境をもっともっと盛り上げて行きたい。機運醸成に役立てたいという思いを持って、こういう企画にした。

南東北総体、コスタ・ネオロマンチカの寄港、酒田港まつりなどこの 1 週間にビッグイベントが集約されているので、市を挙げた盛り上げを図って行こうと考えた。南東北総体は 8 月 1 日から 4 日まで国体記念体育館を中心に行い、コスタ・ネオロマンチカの寄港は 8 月 2 日、古湊ふ頭に一定の物販や観光案内所などの施設を設けながら歓迎していく。港まつりは例年の通り、甚句流し、花火ショーがあるし、また、海上自衛隊の艦艇広報、これも例年どおり 8 月 5 日から 6 日まで護衛艦の「まつゆき」と掃海艇の「のとじま」の 2 隻がやってくる。その際にも古湊ふ頭に観光案内や物販の販売などで盛り上げていく。

②姉妹都市ジェレズノゴルスク・イルムスキー市（以下「ジェ市」）訪問酒田市使節団について

毎年、交互に行き来して交流している。今年は酒田市から使節団を送り込む年で、7 月 11 日から 18 日までの日程でジェ市を訪問する。今年度は青少年を中心とした使節団の派遣。団長には矢口副市長、顧問として市議会議員 2 名が同行。団員は、東北公益文科大学（以下「公益大」）でロシア語を履修している学生 5 人とロシア語の非常勤講師、山形県の貿易アドバイザーで使節団を組織している。

ジェ市では、職業専門学校を訪問し学生との交流、企業やジェ市の祝賀行事でパレードに参加するといった交流を行い、友好関係を深めていく。本日結団式があるので併せて取材をお願いしたい。

【①に関する質疑応答】

- ・酒田おもてなしウイークの件。初めての試みで、今年はこの時期にイベントが集中しているからだと思うが、来年以降の展開はどのように考えているか。(記者) →おもてなしウイークにするかは、その週に固まってイベントがあるか、客船寄港が港まつりとどう絡んでくるか、艦艇広報がどうなってくるかにもよるが、状況を見ながら、イベントが続くようであれば、おもてなしウイーク的なものやっても面白いかなと考えている。歓迎の思いを市として伝えるのは大事。定着していけばいいと考えている。港まつりの時期は酒田が一番盛り上がる時期。これにさまざまなイベントが重なるとなれば、こういったことをして市民も含めて注目してもらえそうな仕掛けが大事。来年以降も状況を見て考えていきたい。(市長)
- ・酒田交流おもてなし市民会議で出た意見で、すでにやっているイベントをそこに合わせるなど想定しているか。(記者) →仕掛けられるのであれば、それはありだと思う。(市長)
- ・コスタ・ネオロマンチカについて。市民側のおもてなしの体制で市が把握しているもので大きいものは何か。(記者) →大獅子を持っていくことも考えているし、船内での歓迎イベントを予定している。入港から出港までの時間は乗船客に対するさまざまなおもてなしや、物産販売などを予定している。出港時は花火、山鉦などの見送りを予定している。入港時は子どもたちのマーチなどを予定している。中町と山居倉庫にシャトルバスを出す。中町では物販やラーメンイベントなど行う予定。(商工観光部長) →まとまったら記者クラブへ情報提供する。(市長)
- ・いつごろになりそうか。(記者) →決定はギリギリになりそう。(商工観光部長)
- ・市のほうで作る(シャトルバスなど)流れに乗れば、市内観光を楽しめるような仕掛けを準備してみても。(記者) →まちなか観光をできるように考えて行きたい。(商工観光部長)
- ・7月中にできそうか。(記者) →説明の機会を設けながら進める。(商工観光部長)
- ・関連して市民手作りの折り紙つきメッセージカードはどれくらい用意するのか。(記者) →おもてなし市民会議、酒田光陵高校などをお願いをして、2,000枚ほど集まる予定。カードに折り紙を貼りメッセージを書いて感謝の気持ちを伝える。20件の企業や個人、グループの会員の皆さんに作っていただいている。(市長公室長)
- ・作っている場所など紹介してほしい。作り終わる前に取材したい。(記者) →17日ごろが締め切りなので、取材できそうなところを確認する。(市長公室長)

【②に関する質疑応答】

- ・ジェ市との交流は、将来的にはこういった効果を期待しているか？また経費は？(記者) →経費は後ほど(市民交流推進主幹) →始まった当時は子どもたちと芸術文化の交流。狙いとしては経済交流もあった。木材など貿易に結び付けたい思いがあっ

たが、その後の情勢の変化でなかなかそこまでできていない。やはり文化スポーツでの交流をずっと行ってきた。ロシアとの関係も新たな環境が整いつつある。引き続き、青少年交流を含め、文化スポーツ交流を続けていきたい。長い年月交流しているのでこの関係は大切にしていきたい。サンクトペテルブルクとの国の交流事業の関係を記事にしたところもあったが、ジェ市との姉妹都市交流が長く続いていることを国がしっかり評価してくれて、本市に打診して来てくれた経緯もある。幅広い意味でロシアとの経済交流のなかの姉妹都市交流という形でこれからも継続していきたい。経済交流は、ジェ市が内陸地港も無いので現実的には難しい。(市長)

- ・議員などが毎年交代で別の人が行くが、ロシア側では毎年来てくれる人のほうが友好的になってくれるし、議論も深まると思うが、なかなか経済的な効果を示せない中で、毎年交代で議員を送るということは、人の見方によっては、単なる議員の海外旅行と思われてしまわないか？学生などは将来の人材投資ということで有望だと思うが。

(記者) →議会にも国際議連という組織がある。国際交流を進めるという意味で酒田市議会も位置づけをしていると思う。姉妹都市、友好都市、あるいはニュージーランドでいえばホストタウンだとかアメリカ合衆国のデラウェア市も姉妹都市になったわけだが、まちとまち同士の特別な関係なので、そこを議員さんたちにもしっかり理解してもらいたいと思うし、すべての議員が必ずどこかには行ってもらって、相手方の議員や市長や市民のみなさんと交流をしてもらおう。行ったことのある議員や市民を、少しずつだが増やしていくことで、交流都市の認知につながると思っている。同じ人でなく行ったことの無い議員から行ってもらい、認識を新たにしてもらおう。ジェ市に行った人達でジェレズノ会を組織していて、次にジェ市が来たときにおもてなしをする力になってくれる。関わった人は思い入れが違う。おもてなしの気持ちも強くなるので、そういった効果も期待している。経済交流の種があれば、議員にもピックアップしてもらい、地元の企業や産業につながるような仕掛けに力を貸してもらおう。ジェ市に関しては、経済交流は環境的に厳しい。サンクトペテルブルクとは、啓翁桜も含めて一定の期待はしている。人口も500万という大きな町。ジェ市は26,000人くらいの小さい町。経済波及効果はすぐにはないが、歴史が長い。40年近く交流しているので大事にしていきたい。(市長)

- ・40年近い交流でなにが酒田で生まれたのか？というのが見えづらいと思う。木材などの貿易でプラスになれば良かったといえるが、効果は今後何十年後に出るのかもしれないが、酒田にジェレズノ記念館があるとか、たとえばロシアの著名人が酒田に来たなど過去に実績は？(記者) →そういった効果は酒田の町の中には無い。そもそも姉妹都市交流が生まれたのが、日露沿岸首長会議というものがあって、そこでロシアとの友好関係の大切さを共通の認識とし、日本の自治体間のつながりもできている。形として記念館というものは無いが、交流の絆はしっかりとできているのかなと私は思っている。ソビエト連邦だったころから、政治体制の違う国同士で、絆を深め、交

流を続けてきたのには意味があると思っている。これからの課題だが、唐山市、デラウェア市、ニュージーランド、サンクトペテルブルクなどとこれから交流するが、どこか1か所の記念館ということではなく、全体のことを考えていく必要が将来的にはあるのかなという思いはある。私としては「交流都市」を看板に掲げたので、40年近く交流しているジェ市を酒田の長い交流の歴史の中の基本とした位置づけをしたい。(市長)

- ・費用もかかるのでは？人数的にも多い。額は判明したか？(記者) →予算は全体で400万円弱。移動費、宿泊費もろもろ含んだ額。旅費360万円程度。(市民交流推進主幹)
- ・議員や学生の自己負担などはないのか？基本的には市の負担か？(記者) →全部市の負担。(市長)
- ・昭和50年代の好景気のころとは違い、今のご時勢で、文化スポーツの交流ということだけでは素直に応援できないと思われる。もう少し絞ってもいいのでは。(記者) →公益大でロシア語専攻の学生がいるし、以前も公益大の学生と一緒にいったことがあるが、本で見たりするより、ロシアに行って現地の姿に触れるというのが教育効果としては一番効果がある。そういった意味での交流事業という意義も考えていきたい。これからのアメリカ、中国、ニュージーランドとの交流は頻繁にやるかは別として、定期的に継続していきたい。(市長)

2. 懇談

【①いか祭り】

- ・いか祭りに関連して、イカの獲れ具合はどうか。(記者) →獲れない。漁協の話では北朝鮮の船の流し網などが操業の邪魔になっている。(市長)
- ・漁協によると北朝鮮の船はダミーで、後ろには中国船がいるとのこと。トラブルを起こしたくないから近づかない。それを盾に中国船が全部持っていくという話。県の調査船が出ているようだが、市からアクションを起こす予定は(記者) →漁協から水産庁へ現状を伝えるよういわれている。担当部署より水産庁には情報をあげて、しかるべき対応をお願いしている。(市長)
- ・砂が堆積して岩ガキが取れなくなるのではないかと現場の漁師から聞く。酒田市だけの問題では無いと思うが、情報など把握しているか。(記者) →初めて聞いた。どうしたらよいか漁協の声を聞いてみたい。対応策はまだとっていない。(市長)

【②風力発電に関する市長意見書】

- ・6月30日締め切りで県から風力に関する市長意見を求められていたと思うが、まだ回答はしていないのか。(記者) →まだ回答していない。環境審議会、景観審議会から意見をいただいて、県営の風力発電事業に関する環境影響評価準備書に対する意

見と、酒田市がやろうとしている風力発電事業の環境影響評価準備書の2つ意見を出したいと準備をしてきた。先週の段階では間に合わず出していない。今日明日中には県へ提出を予定している。内容については、県知事の意見書が公表されるまで、県からも内容の公開は控えてほしいという要望もあり、今は控えるが、知事公表時点では、市長としてどういう意見を出したかはオープンにしたい。両審議会でいただいた意見は、私の意見書の中には明示をしていきたい。環境影響評価準備書への意見書であるので、県の準備書と市の準備書では若干中身が違っているところがある。精度を尽くした調査等について措置を講じて、検討してくださいといった中身をしっかり伝えて行く。さらに両審議会で出された意見なども付記して「足りないところは、適切な処置を講じてください」といった意見にして提出したい。中身についてしかるべき時期に公表する。(市長)

- ・ 県の知事意見書は6月末のはず。県の審査会があるまで、市長意見を出さないのはなぜか。(記者) → 県の審査会は7月7日。それ以降には出せる。知事意見はその後になる。審議会の委員に、先入観を与えてはいけないということもある。もう少しお待ちいただきたい。(市長)
- ・ 2つの審議会では、計画そのものの場所がそこでよかったか、大勢の方が批判的な世論が多かったと感じている。そういった意見を払拭できるものにできるのか？そういう意見自体はどう思っているか。(記者) → その意見だけを取れば、間違っていない意見は多くある。エネルギーに関する考え方も福島原発事故以降変わってきている。県の考え方も変わってきている。景観に関する審議会では原発事故以降も変わらないという意見もあったが、判断としては、最終的にエネルギー的な問題や環境的なもの、野鳥のことなど、総合的に判断して決められると伺っている。これまで県は景観のみを先行審査する方式から総合審査に変えるということが出てきた。事業者としての立ち位置もあるので最終的には市長として、県立自然公園条例に基づく手続きの段階で、県に市長としての意見を整理してあげていく。(市長)
- ・ 市民を納得させていく機会を市側で持っていくのか？委員は景観が大事だといっていて、県のエネルギー政策も理解しつつ、しかしあの場所でやるのが本当にいいのか。別の場所でもいいのではないかという意見もあるのでは。どうやって理解してもらうのか。知事も景観重視で、前の市長もそうだったがそこには立てなかった。原発事故でエネルギーが大事なのはわかったが、だからといってあの場所でいいか？そこを払拭する行動を酒田市はとっていくのか。決意を聞きたい。(記者) → 反対意見を全部払拭できるか、それは正直難しい。市全体として見れば再生可能エネルギーは大事。原発に頼らないエネルギー供給環境を作っていきたい。民間の業者が取り組む前に、市として取り組みそれを市民に還元して、市民生活の福利厚生向上に寄与させたほうが地域の要請に応えられると考える。反対意見をゼロにすることは難しいが、理解してもらう形で、今後の説明にはしっかり力を入れていく。(市長)

- ・風力発電の件について、議会からどうこう意見がきていないということは、一定程度、支持していただけると考える一つの要因にもなっている。反対意見は聞こえてこない。(市長)

【③ミサイルの避難訓練】

- ・県のミサイル訓練を踏まえて。酒田市で新たにに取り組む事業はあるか。防災ラジオの購入助成など、取り組みあれば教えてほしい。(記者) →新たには考えていない。防災ラジオの一般の方への販売は半額助成で進める。啓発活動をいかに充実させるかが大切。リスクの周知徹底が訓練から得た教訓だと思っている。防災無線が室内で聞き取りにくいというのは前から言われている。防災ラジオの導入について、もっと普及するように地域の力も借りながら進める。リスクを意識した訓練、実際に避難所になる場所の運営マニュアルの作成などに取り掛かっている。新たな事業を起こすことは考えていない。(市長)
- ・そのマニュアルは津波対策などとは別に作るのか。(記者) →避難所運営マニュアルの作成を進めている。学校側からも東日本大震災などの事例の反省を踏まえて、地域と学校と行政で話し合い確認しあいながら進めている。(危機管理監)
- ・そこにミサイルに関するものも入れるのか。(記者) →避難所自体は、さまざまな災害を想定。ミサイルだけでなく、避難所として開設するときどういう運営をするかといった役割をマニュアルにする。(危機管理監)
- ・西荒瀬の他の地区からやってみたいという声は無いか？また市単独で行う予定は無いか。(記者) →今のところない。(市長)

【④市有地の売却】

- ・他紙の記事で、市有地の売却で産業廃棄物の処分費用が数百万円かかり、売却益で残ったのが二十数万円しかなかったとあった。八幡町時代からの話だが、もっと詰めようがあったのではないか。もともとの売主である農協に処分費用相当を出してもらうべきではないかという意見も紹介されていた。手続き自体を市長はどう思うか。(記者) →契約書は探したが無かった。遊んでいる公有財産は少しでも処分して財源にしたい。産業廃棄物処理費用をしっかりと押さえて、それ以上の価値で売らないとダメだという話をして、予定価格を設定し入札にかけた。応札があったのがあの金額。適正な価格で売却して、正規の手続きを踏んだと思っている。処分費用も見込んで価格設定するよう指示した。撤去費用を入れると赤字になる案だった。設定価格にやましいところは無いが、農協にある程度負担を負わせる交渉をするべきではなかったかという話については、向こうから見て果たしてそこまで責任を負う義務が法的にあるのかというと、瑕疵担保責任の話もあり、期間が過ぎているなど、難しいという判断だった記憶がある。権利があるのであればやったが、ノーといわれると勝てるはずが無

い。善意にすぎって少し負担してくださいという世界で、そんなことお願いしていいのかということもあった。気持ち的には森友学園の話などあったので、わからなくてもないが、かかった費用は費用として見込みつつ、それでも利益がある価格で売ったということ。手続き的に問題は無いと理解している。(市長)